

## 合格体験記

現役時 53.7%→1 年後 91.8%、驚異の 38.1%UP を記録。

# 東京学芸 早稲田 立教 明治 全勝

歴代最高共通テスト 38.1%UP。 大木 智弘



3 年生の 3 月、大木の受験は終わった。結果は全滅。高校 3 年間、野球や学校行事に時間を取られ、勉強に一生懸命打ち込むことができなかった。大木の志望校は東京学芸。夢は数学を面白く教える先生になること。これを達成するにはまず 5 教科 7 科目で 200 点上げなければならない。偏差値でいうと 20 のひらきだ。

一般的に浪人生が 1 年間で上がる点数は 50 点といわれ、200 点 up は不可能に近い。しかし東進であれば高速学習ができるため 1 年間の授業を 1 カ月で終えることもできる。つまり成績が劇的に上がる学習の仕方が完璧にそろっているのだ。しかも他の予備校は 5 月から本格的に授業が始まるが、東進なら入塾してからすぐ勉強を始めることができる。大木は 3 月中旬、東進で浪人生活をスタートした。大木は英語が苦手な単語をほとんど覚えていなかった。担任は「英語はまず単語を頭に入れる。1000 より 2000、2000 より 3000。数が多ければ多いほど力はつく。それも短期間に一気に！」

東進ではどんなに暗記が苦手な生徒でも 3 日～1 週間で 2000 語詰め込む高速マスター講座がある。大木は入塾してすぐに取り組んだ。共通テスト 1800 は 2 日、熟語 750 は 3 日。驚異的なスピードでこなす。担任の英単語テストも 3 月中に 50 点中の 46 点を記録。大木は 3 月中に共通テストレベルの英単語、熟語を一気に覚えてしまった。英文法の授業、構文の授業も 4 月の共通テスト模試までに終えた。現役時の共通テストは 83 点であったが、4 月の模試で 132 点。スタートの 1 ヶ月で 50 点近く上げた。担任と大木で立てた計画通りの学習量と成績 up。面談時に少しだけニコリしたが、「5 月はどのように 6 教科 8 科目やっていけばいいですか?」「二次試験で使う数ⅢC をどういうスケジュールでやればいいですか?」とすぐ切り替えた。大木はきわめてストイックだ。油断という言葉が彼にはまったくない。5 月の GW から毎週水曜日、共通テスト過去問演習講座で英語と数学、国語の 3 教科に取り組む。英語は回を重ねるごとに 140、160、170 点を記録、数ⅠA も 80 点を突破。しかしⅡBC と現代文が不安定。ある日の面談で「数ⅡBC は計算量が多すぎること、特に空間ベクトルは計算も厳しいけど図形の作図がめっちゃくちゃになって・・・」と大木。今までにない深刻な表情だった。その日の面談は長時間続いた。担任と大木で考えた勉強法は数学ⅡBC は毎日解く、特にベクトルはそれとは別に朝と夜に大別別で解く。現代文は読み方、解き方がバラバラになっていたので共通テスト現代文を受講、その後に過去問を解くという学習に変更した。効果はなかなか出なかったが、実のところ、大木も担任も確実に手ごたえを感じていた。そして、6 月の終わりに、過去問で数学ⅡBC、現代文が 8 割を安定してとれるようになっていた。

7 月、いよいよ過去問演習にはいる。日曜に国立二次の記述型答案練習講座、木曜に早稲田の過去問演習講座を解く。早稲田の数学は大木にとって相性がよくない問題が出題され合格点に届かないこともあった。そんなときこそ、解説授業をしっかりと受けて、過去問の解き直しを徹底的にやった。

大木は 1 年の全てを勉強に費やした。毎日、朝から夜まで。正月も校舎で勉強。リズムを崩すことはなかった。

結果、東京学芸、早稲田、立教、明治合格。それは、担任と二人三脚でつかんだ人生の勲章ともいえる。大木は今、志望大学に合格するという中間目標を達成した。これから数学の先生になるために、数学の楽しさを追究するために、大学でもストイックに勉強に打ち込むだろう。

## 共通テスト 21%UP。

# 早稲田大学 教育学部 合格！

千葉大学・立教大学・学習院大学・中央大学オール合格  
オール不合格から全勝へ。栄光の軌跡。 田谷 諒介



高校時代、受験生としての自覚、大学で何を学びその為は何をするべきか…、という目的意識が欠けていた田谷。なんとなく国立に行ければいいと考え、地元の国立大学も、滑り止めにしていたはずの私立大学もオール不合格。当然といえば当然の結果だった。

浪人した以上、考え方を改め、高校入試の成功体験や固定概念に囚われることのないようにしていきたい、と 4 月、東進での浪人生活に入る。

田谷は、もともとあまり欲がなく、そのため大学についても知識がない。国立で近隣の大学に行ければいいと考えていた。だから、勉強にもうちこめない。これでは浪人しても同じ結果になる。4 月初旬、担任は、意を決し、彼の意識をもっと上に向けさせること、から始めることにした。

『やればできる！君は自分の力をまだわかっていないだけだよ。』『キミなら高みを目指すよ！高みを目指すなら早稲田を目指してみようよ！』

田谷の潜在能力を開花させること。欲がないようにみえる生徒だけけど、希望が見えればきっと欲がでてくるはず、と、この 1 年、『光と情熱を注ぎこむ向日葵のような存在になろう』と自らを奮い立たせる。田谷は、面談で、これからやるべきこと、それができれば早稲田に合格できること、を伝えられる。その内容は、慎重な田谷でも、十分に納得できるものだった。田谷は、徐々に興味を持ち、いろいろな大学を調べ直す。

そして自ら、『早稲田』という大学に興味を持ち始める。それは最高峰という存在に自分が叶うかもしれないという希望の芽だった。

『先生、届くかわからないけど、早稲田やってみようと思います。』、彼が初めてその意欲を、言葉に出した。

目標とそれに至る道筋が見えてくると、行動も早い。それが希望というものだ。GW が目前に迫った 4 月下旬…、田谷は行動に移す。東進の授業は予備校界一、わかりやすく、受けていて楽しい授業である。受験勉強が楽しくできるのは東進ならではの、といってもいい。受ける授業、受ける授業はすべて納得できるものだった。

4 月下旬から 5 月末まで、基礎講座を受けまくる。成果はすぐに出る。6 月の共通テスト模試では英語が 50 点 UP の 172 点。4 期にも届かなかった数学も 6 割台後半と、驚異的な伸びだった。結果が出ると行動に拍車がかかる。基礎講座だけでなく、応用講座、そしていよいよ入試レベルの講座にも到達。予定していた講座を驚異的なスピードでこなす。6 月からは、共通テスト過去問演習講座も開始。共通テストの問題 10 年分すべての教科を終わらせ、7 月以降は、東進で行われた過去の共通テスト類題問題もこなした。8 月から、千葉大学の過去問演習・早稲田大学の過去問演習。過去問は 3 回やれ、担任から言われたアドバイスを忠実に実行した。いつしか、田谷は、年度と問題内容、が再現できるほどに、過去問の意図までも、そして傾向の変化をも恐いくらいに暗記してしまっていた。

第一志望、早稲田大学教育学部合格。 千葉大学理学部、立教大学・学習院大学・中央大学等オール合格。

全滅から、全勝へ。この 1 年で自分の限界が大きく広がったのだ。『東進にしてよかった…。』あらためて感謝の気持ちを伝える田谷の表情は希望の芽が開花したように映っていた。

先輩たちの合格体験から、君に合った東進の 1 年を見つけよう！  
まずは、経験豊富な担任に相談してください！

# 東進でつかんだ春！東進でかなえた夢！

東進を選んだ先輩たちの合格体験から、3 ランク上の大学を君の手に！！



岡 崇文

**中央大学を蹴って浪人。東進本科コースで慶應義塾・早稲田・上智・横浜国立・立教を全勝！**  
岡は一度目の受験で中央大学を合格するも、何か釈然としなかった。高 3 の夏まで部活を続け、本格的に受験勉強に取り組んだのはそれ以降。もしももっと勉強時間がとれていたら結果は違っていたはずだ。自分はもっとできたはずだ…とそれが理由だった。そして再受験を決意し、多くの選択肢の中から予備校は東進に。『浪人するのなら、現役と同じようなラインを思い描いてたらダメなんです。もっと早く、もっと高いレベルで完成しないと。だから自分は高速学習のできる東進を選んだんです。』こうして岡の浪人生活は東進でスタート。最初の面談で「力がそれだけあるなら、まずこの 1 ヶ月で 3 講座を確実にこなせ。スピードが勝負！」と言われた時、この人についていけば大丈夫だと岡は確信した。そして担任との二人三脚が始まる。計画通り順調に成績を伸ばし 8 月の共通テスト本番レベル模試では達成率 90% を突破した。だが、全てが順調だったわけではない。続く回では生物で失点。達成率を落とす。同月の記述模試では数学の達成率が 5 割。点数が安定しない。その後、岡と担任はお互いの考えをぶつけ合いながら面談を繰り返す。10 月、本格的な記述・過去問対策に入った。過去問は担任からの薦めもあり、夏から少しずつ目を通していたが、慶應義塾・早稲田の過去問は実際に時間を計って取り組むと非常に厳しかった。担任からは 10 分を 5 回以上繰り返せと言われていた。さらに弱いと思う部分は積極的に志望校対策講座を申し込んでカバーした。もう岡に死角はなかった。そして一年間で確実に身に付けた実力が早慶上智トリプル合格という結果をもたらした。

■合格校：慶應義塾大学（経済）、早稲田大学（商）、上智大学（経済）、横浜国立大学（経営）、立教大学（経営）

なんとなくできるから共通テスト 9 割超えの確かな実力へ。早稲田、中央、立教全勝！

現役で何とかなるだろうと挑んだ大学受験、滑り止めの中堅私立まで含め、結果は全敗。高校のクラスの中で現役で合格していった友人が東進に通っていたことを思いだし、3 月、高卒本科に入学する。高卒本科では夏休みから共通テストの過去問演習に入るため、1 学期に夏期講習を含めてすべてのカリキュラムを終えなければならない。田中はこれを全面的に利用した。とくに 4 月のスタートダッシュが効き、通常の予備校では数カ月かかる基礎を 2 カ月で完全修了した。高速基礎マスターも学部別英単語という高度なレベルまで完全修得。8 月の時点で英語、数学、物理は 8 割、苦手な化学も 6 割に到達し、秋からは志望校対策に進む。MARCHE レベルの問題をこなし、早稲田の過去問演習へ。12 月の共通テスト模試では英語、数学 9 割、物理、化学 8 割と合格ラインを超える。それでも直前期の不安は担任との学習面談を増やすことで解消できた。現役全敗から、1 年で早稲田(教育)、立教(理)、中央(理工)、…と全勝。数学の醍醐味を広く伝えたいと語る田中の笑顔にはやりきった自分に対する満足感が投影されていた。

■合格校：早稲田大学（教）、中央大学（理工）、立教大学（理）、東海大学（理）

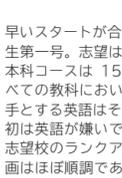


田中 雄祐

東進本科コースで得るべくして得た東京大学理科 1 類合格！

「実は他予備校に行こうと思っていたんですよ。奨学生の試験も受けて、その結果がでる前日でした、東進からのダイレクトメールが届いたのは。」宇治川は地元の出身だが、東進が地元にあることを知らなかったという。「あと一日手紙が届くのが遅かったら普通に他予備校で入学手続きをしていたと思います。」と、東進とは運命的な出会いだったことを語ってくれた宇治川。その日のうちに資料を請求し、翌日には来校。本科担当と話をし、体験授業を受講。「東進は他のコース制の予備校と違って自分で受ける授業が選べるし、そのどれもが引き抜きで集めてきた最高の先生のもの。」こうして宇治川の浪人生活は東進で始まった。宇治川は自宅受講のシステムを使い登校までに講義を一通り終わらせてくる。「本気で勉強に打ち込みたいと思っていた自分にとって、東進の高速学習は最高でした。8 月末の共通テスト本番レベル模試では 91% を記録。共通テストレベルに関しては学力を維持する勉強へ移行、授業も 6 月まででほぼ全ての予定をこなした。そして夏、いよいよ本格的な記述・過去問対策に入る。計画通りだ。過去問は夏から少しずつ取り組んでいたが、担任からの勧めで過去問演習講座を申し込み、10 年分を徹底的にやった。『過去問演習講座は最高でした。時間を計って大量にやり込み、きちんと採点してもらった。さらに解説授業を受けたことで合格を確実に握めたと思うんです。』宇治川。東大模試で相対的に達成率が低い国語・物理・化学は答案練習講座でひたすら記述の練習をした。やり残したことは一つとしてなかった。そして得るべくして得た東大合格。

■合格校：東京大学（理科 1 類）



宇治川 史規

東進本科コースだからできた…志望大学 2 ランクアップ。慶應義塾大学 薬学部 合格！！

早いスタートが合否を決める。常に言われていたその言葉を胸に、内田は 2 月 21 日、目標を来年の受験に定め新たにスタートを切った。本科コース生第一号。志望は薬学部、明治薬科大。この際の際の特待生合格をねらった。夢の実現も合格も、それをどれくらい強く思えるかで決まるのだ。高卒本科コースは 15 講座が基本。基礎事項の復習からスタートして、実戦問題の内容をマスターする講座まで、高速学習でどんどんこなせる。内田はすべての教科において、知識の見直しからスタートした。英語は文法から、数学・化学は単元ごとに落ち落ちていく部分をひたすら埋めていく。一番苦手とする英語はそれに加え、毎朝の音読と高速基礎マスターを併用した。この継続が、英語の飛躍的な伸びをもたらし、夏前に得点率 8 割にのぼる。「最初は英語が嫌いで仕方なかったんですけど、渡辺先生と安河内先生の授業のおかげですね！英語アレルギー無くなりましたもん！」と内田。同月には志望校のランクアップを決心した。夏にはすべての教科で実戦問題を意識した講座をスタートした。そして秋には本格的な過去問演習に突入。合格計画はほぼ順調である。壁にぶつかるとも何度かあったが、序盤の基礎固めが万全だったため、解決策はすぐに見つかる程度のものであった。志望校対策講座も積極的にこなし、準備は万全。過去問・模試の復習は勿論のこと、本科コースで行っていた小テストまでも完璧に復習をこなしていた。結果、見事、第一志望校・慶應義塾大学薬学部薬学科合格。

■合格校：慶應義塾大学（薬学部）・明治薬科大学（薬学）、昭和大学（薬学部）特待生合格・東京薬科大学（薬学部）

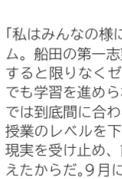


内田 奈々子

東進本科コースで立教・青山学院・学習院・成城を全勝！

一度目の受験は全敗。現実というもの厳しさを知った。高井が人生で初めて味わった、大きな挫折だった。本科コースのスタイルはハイブリッド型。個別授業を中心としたカリキュラムを組みながら、一方で仲間と切磋琢磨する集団授業、ホームルームを取り入れた指導をしている。「いつも夕方のホームルームの後、日本史の問一答をやっていたんですよ。同じ日本史選択の仲間と!彼女の成績アップの原因の一つに、仲間との時間があっては間違いない。英語は前年度からの続きとして、ハイレベルな文法からスタート。ほんの一ヶ月でこなし、次へ。模試の成績も順調だ。が、どうしても力が安定しないのが現代文。「練習と経験を積むことがどれだけ大切か、随分語りましたね…」と担任。担任について高井はこう語る。「私の質問に対していつも真剣に答えを探してくれました。だから、聞けば何でも良い方向に導いてくれると思えたんです。」順調に物事が進んでいる時というのは、人の力を必要としないことも多い。本当に困った時、自分自身で答えが見いだせない時、助けになるのが担任なのだ。最後まで苦しんだ現代文も、12 月には 91 点を記録し、目標得点を圧倒的に突破。過去問対策も万全。合格準備完了。そして信頼する担任と力を合わせてつかんだ「春」を喜んだ。

■合格校：立教大学（経済）・青山学院大学（経済）・学習院大学（経済）・成城大学（経済）



高井 加奈子

東進本科基本コース（15 講座）×2 の高速学習で中央大学 人文社会学部 合格！

「私はみんなの様に優秀ではないけれど、この数ヶ月、目標に向かって精一杯頑張ります。よろしくお願いします。』3 月、本科コース生はじめてのホームルーム。船田の第一志望は中央大学の文学部だ。学習開始時点での学力と志望大学の差は偏差値で 12 以上。一般的に、偏差値 10 の差というのは合格率にすると限りなくゼロに近いとされる。船田の学習は、すべての教科において基礎レベルからのスタートとなった。東進では、本人の頑張り次第でどこまで学習を進められる高速学習ができる。偏差値 12 の差を埋めるにはこの学習方法しかないが、この学習法をもってしても、本科基本コース 15 講座では到底間に合わない。それが偏差値 12 の壁なのだ。一基本の 15 講座を二つ分一それだけの学習量が絶対条件である。確認テストがクリアできず、授業のレベルを下げる苦法を決断をしたこと。そこで流した涙。「悔しくて、情けなくて、辞めようと思うこともありました。」と船田。それでも彼女は現実を受け止め、前に進むことをやめなかった。平均睡眠時間は 4 時間間らず。人の 2 倍・3 倍の努力が必要ということは 2 倍・3 倍の時間も必要と考えたからだ。9 月に入ると、過去問に充てる時間が増えたが、これまでの基礎講座の復習を怠らなかった。担任が伝えた繰り返しが当然のことになっていた。そして中央大学の試験。今までやって来た事、身につけた事を全部出し切ったという手ごたえがあった。偏差値 12 の差を彼女はたったの 10 ヶ月で埋めたのだ。努力の量から考えれば 2 年にも 3 年にも匹敵するはず。その確かな努力が実り、第一志望校に見事合格！

■合格校：中央大学（文学部）



船田 美樹